

非行児のための造形教育

(鑑別と矯正について)

秦 泉 寺 正 一

(高知大学教育学部美術教室)

Art education for misdeed boys and girls

(to judgment and melioration)

Shōichi JINZENJI

(Fine Art Laboratory, Faculty of Education, Kōchi University)

私の足で蒐集した8万点の児童画資料の中から非行児の全国調査資料のみをぬき出して、過去6ヶ年間の研究実績にてらして、美術教育を通して非行児の鑑別と矯正及びその教護のために一提案を試みようとするものである。

1. 非行児の鑑別について

非行児を発見するに当つて、その不良化の原因や程度及び如何にこれを教護すべきかについて、本人の素質並に生活環境の上から一即ち心理学、教育学、医学、社会学等の助けをかりてその判定をしようとするものである。児童相談所の鑑別はこれ等の児童を類型的に分類することが仕事であるが、矯正を必要とする教護院ではそれを事例的に取扱わなければならない。

児童は遺傳的素質や性格的特質、身体的特徴、社会的環境の種々相によつて支えられる有機的複合体であるのでこれ等をあらゆるテスト方式によつてテストした分析的結果をのみ過信して判定することは非行児把握をあやまりはしないだろうか。

判定は可能な範囲に於て具体的事例をとらえることが大切である。この実証によつて、その環境よりもその悪条件の環境を受け入れなければならなかつた本人の非行に陥つて行つた心理的移行の現実を見きわめなければならないだろう。

ここに於て潜在意識の表現としての繪画を用いて鑑別の資料とすることはこの間の判定に確實性を持たせるものである。

2. 造形表現を通して非行児の環境や性格が診断され得るか、(expression と impression について)

「環境は人を作り、人は又自らの環境を作る。」といわれている。この環境に影響されて個々の人の im (内に) press (押し込まれた) impression (印象) はそれぞれの人の個性を形成し、これ等の個々の人から ex (外に) press (押し出された) expression (表現) によつて自らの環境を自らの姿を通して外に表しているのである。

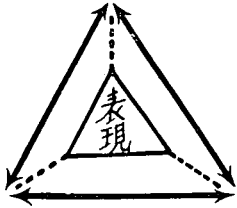
この潜在意識の外的投射の関係から、この繪画表現物は自己を表すものであると共にその自己が生育した環境、自己の個性をここまで持つて來た劣弱体質、自己の性格異常を形成した家族関係、地域社会、又はその非行時の心理的推移までも表現するものである。特に精神病質型等の異常は各態に應じてその偏倚が強度であればある程表現物の訴求力が強く、これが往々天才的閃めきとしてその才能が喧傳される場合が多い。

3. 繪画表現によつて非行傾向は診断されるか。

非行そのものが獨立的に存在するものではなく、彼等の体質、氣質、性格、疾病、社会等の諸条

件の相互関係における人間行動の一形式であるので、先づ非行の傾向を知るためには非行児の性格、環境、非行と表現との関係がどのような組み合わせになつてゐるかを知らなければならない。

(C) 非行



(B) 環境

(A) 性格

この関係を図示すると、この三角形の各頂点上の環境、性格、非行の相互関係と三角形内の表現との関係をみつめてみると(A)の性格の表現(B)の環境の表現(C)の非行の表現としての繪画というものが成り立つが、繪画表現は人間個なる姿の自己表現である限りに於ては(B)(C)は(A)の個性の表現を通してのみ考えられるべきものである。

4. 非行児と繪画表現

この資料は環境、性格、非行、表現の関係を自由画を通してみようとするもので、これは自分のかきたいと思うものやことがらを何でもかくことによつて非行児の潜在意識や表現形式を見ようとするものである。

今ここに聾啞児が窃盜に陥つて行つた心理的な移行が表現に表れた事例を述べてその例証としてみたい。(高知聾學校事例)

△ 中学二年男、難聴聾児、スラム街、父日傭労働者、母情夫と家出、続いて父情婦と家出、兄ヒロボン中毒、窃盜常習、この兄にそそのかされて店頭より金品窃取した初犯の心理が彼の毎週描いた繪画によつて診断される。

(1) 窃盜前二週間の繪は丹念ではあるが平靜状態でいつもバラバラな感じの繪をかいていた。

(2) 同一週間前兄に窃盜を強要され心の動搖をかくすことが出来なく、平常は船の繪などかいたことのなかつたこの子が荒波を競立てて進む三本マストの汽船をかいている。

男の子が船をかくのは動きを求める性質からであるが、この繪は彼の精神的動搖を物語つている。この時の彼の行動は被害にかかつた店頭を徘徊して留守勝になる時刻を調べていた窃盜準備期間で精神的動搖期である。

(3) 窃盜前日、情緒欠陥児のよく使うプルシャンブリューで交通巡査をかき、混濁した黄色で電車をかき、おまわりさんとかかれた文字は赤の上を黒でぬりつぶし、自己否定の表現形式をとつている。この窃盜前日の心情混迷のジレンマが不安定な心情となつて巡査を混濁した色でかいていると思われる。教師は既にこの時期にこの子の異常を察知して処置しなければならなかつた譯である。

(4) 窃盜直後すぐつかまつて、教師、警官の前で一切の泥を吐いた。そのあとで描いた繪は水仙と金盞花を瓶に差した静物であるが、そのほつそりとした内輪な表現は自己反省の姿をあらわし明鏡止水の境地であろう。

(5) 窃盜後二週間目の棒は多少構図が大きくなつて気分も出て來ている。

(6) 同三週間後の繪は風景を描いているが(1)のバラバラな初期平靜時代よりも充実した画面と緊張した誠実さと調和が見られる。これは窃盜時の異常緊張が内氣なこの子に充実した集中性となつて転位したからであろう。

反社会的窃盜の焼印の捺される前に表現行爲からその異常を早期に発見し善処すればこの初犯から救うことが出来たであろう。美術教育における兒童觀察の不徹底を嘆くものである。

以下非行児鑑別の立場から非行児を次の分類にあてはめて、その生育歴、性格、身体、環境と表現との関係について、具体的な事例による総合判定の資料としてその一部を分析してみることしよう。

(a) 人間行動の一形式として環境と個性と表現との関連により非行の原因と型を決定しようとする立場。

△ 偏愛から來た家財持出と不安定表現、

19才男、母の偏愛より怠惰となる。依頼心強く、意志不定性乍ら自己顯示性強く、即行性の輕浮

な子で、家財を持出し遊興にふけつた。表現は不安定なストロークと雑多な色の雑然とした使用であつて6才児程度の表現である。(福井少年鑑別所事例)

△ 惑溺者の潜在意識の表れた虞犯児

19才男、僧侶の父厳格なため父のなすがままに流れ、意志薄弱(惑溺、自制欠如)となり、高校時代性交に惑溺していつた。絵画にはその間の潜在意識がよく表われており、月が雲に入りつつある。鶏小屋には二羽の鶏がいる。これを猫が狙っている。その猫を黒い雁が空から見下している。それを丁寧な表現でしつように描き込んである。これは性交の相手を狙う彼の姿ではないだろうか空の雁は父の監視であろう。(福井少年鑑別所事例)

△ 母をとられた窃盗児のかいた情夫の繪

16才男、養母に情夫あり、これに反抗し、情夫の金品を窃取、誇張、虚飾、自己顯示性神経質の子で、情夫に母をとられたうらみが情夫を困らすための窃盗となり、このにくらしい情夫を田圃の中のかがしにかいたといつている。(福井少年鑑別所事例)

(b) 法を犯した非行をのみ問題として法律的に刑を決定しようとする立場から見た証據としての表現

△ 浮浪無賃乗車の子と汽車の繪

無賃乗車百数十回という原因を究明してみるとIQ=49という19才の精薄児であつた。この子の繪は汽車と沿線の鉄橋などである。そしてこれを更に詳細に亘つて観察して丸で優秀児級である。驛名は東京、下関間を全部暗記している。汽車が興味の中心であり、この潜在意識が汽車の繪をかかせていて、この集中度が優秀児級の表現になつている。ここに精薄児教護の狙いが考えられる。(福井少年鑑別所事例)

△ 売春窃盗女児の同衾用布團

IQ=40魯鈍、躁狀、粗野、刺戟的、開放的、氣分易変大、衝動的即行、早熟、月經過多の17才女、意志表示をしない精薄児を狙つていた男のために強姦され、中学二年より性的異常となり集團遊交をなし、現接客婦、彼女の表現は男と同衾する布團の繪ばかり描いている。これは彼女の生活が男と寝る売春の生活しかないことを物語つている。ここに精薄児の悲哀がある。(貴船原少女苑事例)

△ 報復殺人と沈没船

19才男、新制大学一年、反射機能亢進、神経過敏、父を保護するため父に危害を加えんとしたものを報復的に殺した。表現は廣い荒海の中に消えて行く赤い沈没船の舳をかいている。その鋭さに感覺的異常を認める。(徳島少年鑑別所事例)

(c) 非行児を生來性犯罪者とみてその遺傳的素質を身体的特徴と表現との関係で見る。

△ 心臓病の賭博者とその子

父は賭博者で心臓病の重症、歩行困難、丁半を争うときは体がしやんとして徹夜も平氣、この子は父の体質と非行を遺傳しており、繪にかいた犬は自己の心臓病と同じく、今にも死にそうな病犬にかいている。病犬は自分の姿であり、彼は遺傳的体質、生來性の犯罪素質を劣等体質に関連して遺傳している。(高知鏡川学園事例)

(d) 精神構造の悟性、感情、意志の偏倚を示す人格の精神病質による非行とその表現

△ 赤ん坊こま切れ事件と重色主義

16才男、抑鬱性、突発的衝動、即行性もえ上り性のこの山の子は隣家の乳呑子を奪取、利録をもつて赤ん坊を割腹、内臓を素手にてつかみ出し、その上赤ん坊をこま切れにした。抑鬱性衝動型の重色主義はマチエールの美しさに於ては素晴らしい。その偏倚の異常が表現に訴求力を與え、迫力を増しており、近代美術における異常感覺表現とよく似ている。又この子のかいた人物画の髪の毛は逆上して逆だち、手は左右につよくつき出され意地の強さを表しているがその他の線描きはジグザグ描きで弱い。(武蔵野学園事例)

△ 手の表現 1, 一血にうえたような傷害児の手

爆発的発作を伴うこの子は赤の上に黒濁色をぬり、下塗の血を表わしたであろう赤色を打ち消している自己否定の線のつよい繪である。原始人の首祭の血の宴にも似た手の表現である。(高知鏡川学園事例)

△ 手の表現 2, 一窃盗児の不安におびえた手

自己不安定と自己劣等感から情緒的偏倚を持ち、手の表現も画面の下位にのみ羅列描きして、真白い手、真赤な爪、灰色の甲、黄色の濁ったバツクなど全く劣等感から来る精神的偏倚が構図の上にそのまま表われている。(同上)

△ 手の表現 3, 一正常にかえつた子の手の表現

主観的な自我意識の強かつた精神構造の偏倚の時代から、自己と他との区別が次第に分別され客観的に他を容れることの出来る対人関係が成立し、今は正常児となつた子の客観的な表現形式である。退園後優等生になつた。(同上)

(e) 劣弱な身体的、精神的体質により起る非行を体質的に分類して、その劣弱体質が表現に表われる特徴(高知の各施設で調査)

△ 結核性体質と淡彩一虚弱さが淡色表現となり、淡青、灰、茶等の刺戟度の弱い色又は清色のみを使う。窃盗児の自己不安定と似通つたものがある。

△ 小児マヒ兒と非関連性内容一四肢の行動が不全であるため描き方も弱い線描き、持続性がなく描く内容も関連性のないものを羅列し幼児期的徴候を呈し、図式前期である。

△ 脳梅毒兒の濁色表現とにじみ一(先天性知呆症)病状の進行と色のにじみとの関係があるのか、内向型の重色主義をとりロールハツシャ・テストのデカルコマニーを見るようである。人物画では顔を塗らない場合がある。

△ てんかん兒の細密描寫一偏執性傾向が微細に亘つて精密寫生を余儀なくさせその集中性は迫力のある表現となつて表われている。

(f) 原型質遺傳、社会的遺傳の精神的劣弱さが生んだ非行と表現

△ 脅迫と小羊

稍分離性性格、無精、非社交的、同僚に自己顯示をする。我儘。真赤な竜が大きな口をあけて、その口の中に小羊をかいて、今にも上下から噛み合わせようとしている。精神的劣弱から来る強がり。(福井少鑑事例)

△ 目を細かくかく恐喝暴行

19才男柚人夫、父情婦と家出、自己劣等感の持主、飲酒時に恐喝暴行を働らく、感情鈍麻なるも飲酒により補償作用はげしく爆発、自分の肖像を不安定な自信のない薄い線描きでかき、目を細く糸目にかく、劣等感から来る精神劣弱の表現(松江少鑑事例)

△ 誇張的表現の知能犯窃盜

19才男、舞踊家である父の遺傳を受けて藝人氣質、坊ちやん氣質、理屈つばくて誇張的、生死とかいたパレットに短刀をつきさして血のしたたるようすを描いて、その誇張的表現がそのまま父ゆすりの性格を遺傳している。(松山少年院事例)

△ ギザギザストロークの窃盜、恐喝、強姦未遂の被虐兒

16才男、父母より虐待さる、父の性格偏倚を遺傳して自嘲的、衝動性、爆発性、過感的になつていて、この非行をなした。これが黒のギザギザ描きの山のとげとげしさの中に弱さを含んでいて空の一角に一峯突出していて異常緊迫感をもつ。(福井少鑑事例)

(g) ホルモンの内分泌より氣質、知性、性格、人格が形成されるという内分泌医学より見た非行者と表現

△ 淋しそうな黒茶色を使う無口窃盜兒18才男、無口、孤獨、親しみがなく、明朗性を欠く、こ

の繪は黒茶色の弱々しい塗り方で黒味勝の家の窓からランプが見え、軒先に黒くたたずんでいる影法師は自分である。街頭の明りも乏しく如何にも物淋しい孤獨感に満ちた繪である。友人を持たない孤獨感から單獨窃盜を働いた様子が見られる。ホルモン不足と孤獨との関係が見える。(福井少鑑事例)

△ 甘い表現の強姦Ⅰ型

A男15才(熊本少鑑) B男27才(高知刊務所)、共に甘い女性的性格と女たらしの美男子のやさ男型、やさしく誘いかけて来て徐々に行動に移る型であろう。Aは木と家のある道のまがり角を描き全体に霞のかかった様な淡く甘い調子でかいている。

Bは観察室での描画方法をみていると盛んに指頭を用いて繪具をのぼし觸覺を楽しんでいた。のつべりした表現、觸覺表現と婦女暴行と関係がありそうである。

△ 劇しいタッチの強姦Ⅱ型

15才男、新制中二年在学、自己顯示性、粘着性型で婦女を襲撃、強い自我表現がはげしい斜線のストロークとなつて強くかかわれている山の下の一軒家の繪、(徳島少鑑事例)

(h) 環境的条件による模倣や暗示が非行へかり立てた場合とその表現、

△ 俠客の繪ぞかくヒロボン中毒-I Q=98, 19才男トラック助手、抑ウツ性、即行性偏倚、生來その環境はよかつたが自己の劣等感をカバーするため與太物とつき合い、虎の威を借りて自己顯示、終にボンを打つことによつて一人前だと自負した。(入墨も同様)この表現はまげ姿の俠客の顔を画面一杯にかいている。筆圧も強い。(徳島少鑑事例)

△ 重色混乱のボン中-I Q=78(限界)19才男、父亡、住居附近不良、性格抑ウツ性、無力性、自己不確實、内閉性、意志欠如(異常)、粘着性、即行性、氣分易変性(偏倚)ボン中の特色である情緒混乱時の表現としての重色主義がここにも表れている。ボン中の沢山の資料の中に見受けられる重色類型は自己喪失症に陥り重色混乱を呼び起すようである。(徳島少鑑事例)

△ 落書とボン中

潜在意識と落書との関係を利用して非行児教護中に所内に鉛筆と紙を與えて描かせたものがこのアンプル、注射器、カッター、お巡りさん等を雑然と書きなぐつた繪である。注射をしたいという願望の充足がここに表れている。(北海道札幌の子)

このような視覺的表現を文字表現で報告しなければならないので非常に困難を感じるが、この鑑別も直感による判定が重要であるので専門的に相当訓練されたものによつてのみ果される譯である。

性格と非行と表現形式の鑑別表

性 格	非 行	表 現 形 式
抑 鬱 性	窃盜, 性的犯行, 服務規定違反	重色主義
無 力 性	窃盜, 輕犯罪, 殺人, 服規違反	筆圧弱く, 淡彩
過 感 性	笹盜, 詐欺, 服規違反	斜線描き
自己不確實	窃盜, 詐欺, 服規違反, 文書偽造,	タッチにリズムがない
強 迫 性	窃盜, 服規違反	一点集中描き
内 閉 性	窃盜	弱筆圧, 偏在
粘 着 性	窃盜	強筆圧, 細密
意 志 欠 如 性	窃盜, 輕犯罪, 横領, 詐欺	筆圧弱く, 部分描き
即 行 性	窃盜, 強盜, 傷害	筆圧強し
不 安 定 性	詐欺, 小犯罪, 公安妨害	ストローク弱線方向不定

気分易変性	傷害, 放火, 服違窃盗, 恐喝, 暴行	多色主義, 羅列主義
自己顕示性	窃盗, 強盗, 恐喝暴行, 傷害, 強姦 詐欺, 殺人, 兇器	多色主義(強, 目を丁寧にかく)
爆発性	強盗, 服違, 名誉棄損, 窃盗, 恐喝 暴行, 傷害, 反抗	重色主義(赤の上に黒等多し) 筆圧強し
爽快性	窃盗, 兇器所持	多色, 漫画風

(5) 造形教育に於ける非常児の矯正教護の方法について

繪画による診断は表現とその潜在意識との関係を知らうとするに止まらず、之を矯正に利用して幼少時のフラストレーションの転位を考へて指導して行けば、次第に原始的な欲望は置きかえられて昇華の経緯を辿り超自我が形成され、現実に適應した社会性を獲得するであらう。

ここに繪画のみならず、工藝をも含めた造形教育全般から見て、非行児の欠陥の直接原因除去に役立つ造形方法についてのべてみよう。

(a) 安定性の欠除と繪画的創造

創造の原型である想像の世界は、心理的に不安定な状態に於て空想に走る傾向があるが社会的な抑圧を受けて非行に陥つたものにとつてはその社会の重圧をも忘れさせてしまうものである。即ちあらゆる抑圧から解放されて安定した心情を持つことが出来る。

(b) 律動性の欠除と造形作業

生活に規則的な律動のないところに生活のふしだらが生まれ、非行の原因を作る。律動的生活とは労働作業とリクリエーションの調和である。リクリエーションとは労働力の再生産即ち適当な肉体的休息と精神的慰樂による明日の労働へのエネルギーの蓄積である。造形制作はそのリクリエートに最も健康的で、最も生産的で最も合理的な肉体と精神との調和した律動性を與える唯一のものである。(音楽効果も同様に考えられる。)ここに非行児に安定性を與える造形教育機能の一つがある。

(c) 自信の欠除と制作と興味

あらゆる劣等感の持主が繪画制作、工藝制作等にて自己の予期しない効果をもつ作品が出来た時社会から最大の讃辭を浴び、自らの生命の底に潜んでいた能力を自覺し、自信を以て行爲が出来ようになり、自己劣等感が拭い去られると共に、その自己の能力を自覺した制作に興味を持ち、又興味を持つことによりそれが技術的に巧妙になつて技術的能力は向上する。

(d) 愛情の欠除を人形作りにて治した事例

無口な神経質なこどもで愛情不足という原因を發見した子に人形作りをさせた。氣鬱性が直り、愛情が充足された。幼兒期に父母の愛情に欠けて性格的に不安定になり、友人つき合いも少く益々内向的になつていたが、自己よりも弱い少さい命を愛することによつて愛情が充足された。今紙粘土で小型マネキン人形を塑成させている。

(e) 非行の潜在意識を繪画によつて自覺させる方法

繪画等の表現物に表れた潜在意識を抽出して、自己の非行の原因を自覺させ自己改造に資させる。

(f) 不良意識を忘れ去らしめるための自由制作昇華法

家族や親やその他の不良化の原因を單獨除去するため繪画の上で親を殺し、恥かしめ、抹殺せしめることにより、劣等感や不良行爲の原因を解消し、その意識をも自然に忘れ去つて、新しい解放された世界に住むことが出来る様にさせる。

(g) 美術教育による調和の美を發見せしめることにより野性的生活を文化的に高める。

衣服、環境を美的に整備し、文化的生活様式に入らせることによつて、野良犬のような生活態度を文化生活的驚きの中に生活させる文化法が考えられる。新しい建築を建て、それを色彩調節して心よい環境に置いてやることにより捨てばちな不良意識が減少した。

(h) 都會的な惡の風潮に沁みたる文化過剰な兒を、自然に親しませ、自然を愛する生活に導入し

野性を喚起し自然のリズムに合はさせる。

都会の中に住むスリの子を泥んこの野性的作業(農耕, 土木, 窯業等)に従事させることにより幼時期に制止されていた, 泥んこになりたいと願望する心を満足させ非常に興味を呼ぶ, このために樂焼窯の土こね, 薪割り, 火焚きをさせると作ることの面白さにつられて指頭は知らず知らずのうちに損傷して, 従前の様な鋭敏な指頭は望まれなくなる。仮りに再びスリを働こうとしても巧妙にすれない。そこに技術の劣等感を味わいスリの仲間から逃避する様になる。劣等感による自信喪失といつてもよいであろう。

(i) 集団作業による合作法とプライベート

自分に都合のよい個々まちなことをするこれ等の子が一定の共同制作作業が出来る様になれば, 非社会的行動が規正される。然しここにも又各自自分獨りだけの私的世界が必要であるので自分だけの空間を興えることも又大切である。

(j) 物を粗末にする子と必需品製作の経済法

物に対する価値の認識の少いこの子等に自分で消費するものを自分で生産させ, 自分で使用する様にさせることにより, 一枚の紙, 一片の木片でも大切にし, もつたないというようになる。

新らしく可塑性塗料を完成した私は彼等に美術小函の制作を試みた。それは驚くべき優秀さで鎌倉彫以上の古美術の味をたたえた古代塗が出来た。水磨ぎ, ワックス磨の作業はその模様を磨ぎ出したり, 艶が出て来たりすると一様に奇声を発して喜んだ。その小函を「とても可愛い。」といつてめんこなどを入れて抱いて寝ていた。(教護と美術教育原理で後述)

(k) 創造的自由解放と生活態度と形態

自分の思うことが自由に表現出来る様になれば, 自分の意志傳達も容易になり, あらゆる抑圧から解放されると生活態度ものびやかになり, 人間形態にそのゆつたりした気分が表れる。先づ子供にうれしさを興えるために幼時期の自由さに一度下らせここから再出発させることが早計である。

(1) 職業教育と造形作業

職業が人間を規正する場合が大きく, 非行児の最終目的も非行児の興味を引かない学習よりも或職種に興味を持たせることによつて救はれて獨立自活の道が拓けて来るものである。然し非行児なるが故に敬遠される対人関係について対策を立てるならば職業開拓は可能になるであろう。

そのため職親友の会を作つて専門的な職能者で教護に理解のある人を一日職業顧問として各施設で指導を奉仕してもらうことにしている。それには自転車修理, 時計修理, 養鶏, 鍛造, 運搬業, 農業, 漁業などあらゆる職種が含まれている。こどもの方はその間自分に最も適した作業に集中するであろうし, 職親会員の方では多忙の折は手傳いに來てもらえるというので相互都合がよく, 職業興味による職業指導法がこれ等会員によつてあらゆる方面に亘つてテストされることになり, 尙対人関係はお互が理解しあつているのでよい。その上アフターケアー施設, 身上相談に迄援助をしてもらうという方法である。

この案は教護院の職業教育に新生面を開こうとするものであつて育成に努力している。

6. 非行児の造形教育の原理(天才児と非行児)

「我々の人間が生來持つている反社会的衝動を社会が承認されるような方向, 例えば之を文学, 藝術等に変化させることが出来るかどうか彼を犯罪者にするか, しないかの重大な心理的機構である。」といわれているが, ここに造形教育機能と矯正, 教護とのつながりの原理があるのではないだろうか。

非行児の繪画作品が展覧会で特選優秀作として天才児呼ばりされる現実にしばしば接する。現に一昨年東京驛画廊に私の指導した鏡川学園児の作品展を催した時その異常表現が作家連に反響を呼んだ。

又今夏創造美育全国大会に同学園の新古代塗を出陳してその味わいの深さに美術批評家をうなら

せた。

これは造形藝術家の持つ自我と非行兒の持つ自我とが非常によく似た訴求力の強さを持つておりその異常傾斜の偏倚が共に大であるからである。

ヴェートーヴエンは酒吞で変質で、ゴッホは精神分裂で社会的には好ましい存在ではなかつたが、この偏倚のエネルギーそのまゝ素晴らしい藝術創作エネルギーに転位されて大音楽家、大画家として社会は尊敬している。

非行兒も社会的には好ましい存在ではないが、彼等の性格偏倚が他の技術、藝術に転位することによつて素晴らしい表現作品となつて藝術作品に匹敵する訴求力を買われて非行兒であるが彼は天才兒だと言われる様になるのである。

又非行兒は社会の抑圧からのがれて空想の世界へ逃避しようとするものであるから、より近代的創造性の無意識表現と親近性をもつものが生れて来る。

近代造形は子供の繪や原始人の造形表現に似た特徴を持つているといわれ又それを追つている。

近代感覺は病的だと言われ、天才とは獨創的で変つてゐる人でなければならぬと極言する人もあるが、芥川竜之介、夏目漱石などは精神分裂と常人との間すれすれで創作活動をしていた人といえ又その時期の作品が一番素晴らしいといわれている。

非行兒は往々にして原始人であり、知能低格者が多い、即ち幼兒であり精神病質者である。そしてその環境素質から生まれた性格異常は益々その原始的な潜在意識の率直な表現となつて表れ人の心を揺り動かしているのである。

非行兒の造形教育はその造形制作から生れるための職業指導に導入することが大切でエネルギーの偏倚を性格異常として普通の姿にため直すことをするのではなく、（又そういう矯正はこれ等の子には期待し難い。）むしろ異常を異常として認めそのエネルギーを誰も追隨を許さない程の天才的能力として育て上げなければならない、その過去の非行は蔑視されるであろうが天才的能力は社会から尊敬されるであらう。又社会から尊敬されることにより彼等は再び非行を犯すことを恥ぢるであらう。この教育原理を應用すれば精薄兒で日本のゴッホと言われる山下清につづく非行兒、身体欠陥兒等が現れるであらう。

(昭和30年9月30日受理)